

# 竜の子奨学生

第22号  
Aug.2018

その夢は、きっと世界を変えていく  
The dream surely changes the world.



第35回交流会 第11回卒業式・第12回贈呈式



第34回交流会  
(八景島シーパラダイス)



SPECIAL REPORT (瀋陽のレジにて)

## CONTENTS

- ② 卒業生の「現在の夢」
- ③ 第35回交流会レポート  
(第11回卒業式・第12回贈呈式)
- ⑧ 平成30年度新入生紹介
- ⑩ 竜の子近況報告
- ⑮ SPECIAL REPORT
- ⑰ 編集後記



公益財団法人 竜の子財団

Tatsunoko Foundation

## 現在の夢



張 冲

加百列(株)社長  
浙江省“千人計画”特任専門家  
日本中国商会 副会長

2009年 立命館大学 政策科学研究科 博士前期課程修了  
2012年 立命館大学 政策科学研究科 博士後期課程中退  
2012年 杭州で杭州加百列(株)を設立  
2013年 “南太湖エリート”人材計画に採用、湖州へ移転  
2014年 浙江省“千人計画”人材プロジェクトに採用  
浙江省“千人計画”特任専門家  
2015年 浙江省で農村生活ゴミ分別処理モデル事業を参入  
2016年 浙江省浦江県で農村生活ゴミ分散型処理モデルを推進  
2017年 中国戦略性新興産業優秀貢献賞  
中国知能都市 先鋒人物賞受賞  
2018年 金華市海外留学生起業 ベスト+

2002年、私は思いを持って日本留学に来た。その思いはただ中国の生活環境を良くするためである。

2004年、立命館大学政策科学部に進学する際に、その思いに一歩を近づくと感じた。学校で学習する内容も環境分野に関する発展途上国が資源循環型社会をいかに構築するか、持続可能な発展に繋がることで、最終的によい生活環境に寄与する。

2007年、竜の子財団と出会い、財団の活動に刺激され、日本に留学に来る際に持っている思いはまさに自分の夢だと確信し、私達一人一人の夢を重ねれば大きな夢になる。その夢はきっと世界を変えていく。

2012年、中国で食安全の問題で多く報道された。これをきっかけとして、留學生活を終わりにし、博士後期課程中退を決断した。加百列株式会社を設立した時に、自分の夢に向けて一歩前進した嬉しさと共に、非常に重い責任を感じた。

2015年、中国政府が浙江省をモデルとして、農村生活ゴミ分別処理に大きな一歩を踏み出した。長年の学習と準備をしていたので、この国家戦略プロジェクトに参入することができた。三年間、日々問題と困難との戦いで、現在、浦江県での農村ゴミ分別処理モデルは全国のモデルになり、生活ゴミ分別資源化処理というゴミ対策が見えて来た。

2017年、農村ゴミ処理分野で多くの賞を受賞し、浦江県、金華市、浙江省の農村生活ゴミ資源化利用政府会議が相次ぎに開催された。今年に、浦江県は浙江省静脈産業モデル都市として採用され、これからは農村生活ゴミ処理だけではなく、都市の全般廃棄物の資源化処理、ごみ処理システム化とビッグデータ管理も導入し、中国に相応しいゴミ処理対策、革新的な政策提案に努力を尽くす。

2019年には固体廃棄物処理国際会議が浦江県で開催される予定であり、これから、一帯一路の国のゴミ処理にも役に立てばと思う。

私はその夢に向かって歩み続けて来た。これからも、変わらずに歩み続けていく、その夢はきっと世界を変えていくことに確信を持っているからだ。



浦江県農村生活ゴミ(腐敗物)微生物処理センター



浦江県の全県16箇所生活ゴミ処理センター配置図



張冲 現在の写真

### ご寄付いただいた皆さまへ

いつも温かいご厚意を賜り、誠にありがとうございます。竜の子奨学生を代表し、寄付者の皆さまに心より御礼申し上げます。私たちはそれぞれの夢を抱き、異国の日本に留学に来ました。そして、皆様からの温かいご支援のお陰で経済的な困難が減り、夢に向かって全力疾走し、日々充実した生活を送っています。また、交流会を通して日常生活では味わえない日本の文化を深く学んだり、竜の子奨学生の仲間たちと留學生活の喜びや辛さを共有することもできました。皆様からの温かい支援を心に刻み、私たちの夢の実現、延いては社会に貢献できるように、これからも一生懸命頑張っていきたいと思えます。末筆ながら、重ねてお礼を申し上げますとともに、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

(平成29年度竜の子奨学生 東京工業大学大学院 朴相源)

## 第35回交流会レポート

平成30年3月16日（金）、代官山のイタリアンレストランにて第11回卒業式・第12回贈呈式が開催されました。竜の子奨学生9名が財団を卒業し、新たに9名の竜の子奨学生が迎え入れられました。秋元理事長からの式辞や来賓の方々から温かいお祝いの言葉をいただきました。卒業生代表の挨拶で金香花さんが送辞を述べ、新入生代表の答辞で馮岩飛さんが寄付者および関係者の皆さまへ心より御礼を申し上げます。

### ● 第11回卒業式・第12回贈呈式 ●

#### 式辞

##### 秋元 竜弥 理事長

今日は第11回卒業式、そして第12回贈呈式を迎えました。改めて、ご寄付していただいた方々もしくは交流会に参加、当財団の関係者へ感謝の気持ちでいっぱいです。また、日本和装ホールディングスの吉田社長が毎年卒業生に着物の晴れ姿ご用意していただき、卒業式を演出いただいております。本当にありがとうございます。

当財団が発足のきっかけは、私費で日本に一生懸命勉強しに来た留学生たちがアルバイトに時間を取られて、満足に勉強ができなくなり、そして自分の夢をあきらめて、母国に帰ってしまう方が殆どであるという状況を聞きまして、ここで一助になるかということで当財団を発足したのが始まりでございます。当財団のキャッチフレーズ「その夢は、きっと世界を変えていく」という言葉を皆さんに贈ります。やはり皆さんが世界平和の一助になる人材になって頂きたい、社会に貢献できる人材になって頂きたい。そして、日本と皆さんの母国、アジアの架け橋となる人材になって頂きたいということを願ひまして、この財団の活動を推進して頂きたいと思っております。

今日は卒業生が9名で、のべ223名の卒業生を送り出すことができたのも皆様方のお力のお陰だと思っております。今期卒業を迎える9名の皆さんおめでとうございませう。そして、新しく竜の子の奨学生となった方々も9名おります。選考委員会で選ばれたことは本当に喜ばしいことです。これからは自分の夢をかなえて社会に役立つよう頑張ってください。今日は、ここで交流を深めて、皆さんの夢を各来賓の方々、当財団の関係者の方々とお話ししていただきたいと思っております。



式辞を述べる秋元理事長

#### 卒業生代表挨拶

##### 京都大学大学院文学研究科

##### 金香花

この度卒業生の代表として、この場で感謝の気持ちを皆さん直接に伝えることができ、感謝いたします。私は3年前に竜の子財団に入りまして、その時の私の中では、博士論文の作成という作業を、それほど過酷な作業と認識してはいなかったです。博士3年の一年間で勝負しようと思っていましたが、見事に潰されました。その絶望の中の私に希望が見えたのは、私がほかでもなく、竜の子財団の奨学生であることでした。なぜかという、ここでは申請が通れば留年しても変わらず支援してくださるということをお伝えされました。これでもう1年頑張れると思うと、本当に落ち着くことができました。そして、5年間続けてきた私の研究テーマが最後、博士論文という形で完成できました。留年は制度的にあまり喜ばれないことですが、私の博士論文の完成には必ず必要なことで、この留年の2年間で、一番プレッシャーの大きい時間でした。経験したことがある方ならわかると思いますが、周りの人の一言に我慢できないぐらい敏感となり、精神的に抱えていたストレスが、体の症状として出てきます。この留年の時間を認めてくださったのは竜の子財団であり、その時に私を励ましてくださったのも財団の関係者様でした。今年の1月に私は博士論文を完成させて提出することができました。それは本当に皆様の支援があったからこそです。これで私は研究室史上、博士論文を完成させた留学生第一号になります。皆さん恐らく一人一人でも死に頑張っているけれど、時には一人の力ではどうしてもできないことがあります。それを支援してくださるのは竜の子財団であることを覚えていただければと思います。最後に卒業生の代表として、竜の子財団に深く感謝の気持ちを申し上げます。ありがとうございました。



卒業生を代表してスピーチする金香花さん



卒業生より花束贈呈



秋元理事長より卒業記念品の贈呈



卒業生よりサプライズの記念品

## 選考委員長報告と挨拶

### 小谷 誠 選考委員長

今年は9名の方が卒業し、在学生の再申請者が9名と、新規申請者の9名と合わせて今年の子奨学生を構成しました。奨学生に選ばれた皆さん、おめでとうございます。



選考結果を報告する  
小谷選考委員長

せっかくの機会なので、奨学生の皆さんが竜の子財団を卒業した後、活躍するにはどうしたらいいのかについて、少しお話しします。

わたしは45年ぐらい前にアメリカのマサチューセッツ州にあるMITに留学して以来、ずっと脳の研究をやってきました。脳細胞は、生まれてからどんどん増えてきて、20歳過ぎるとその増長を停止します。そして40歳ぐらいまでキープし、それからどんどん減っていきます。60歳になると平均的に一日30万個の脳細胞が死んでいきます。言い換えれば皆さんが20歳までに成長した脳細胞で十分に活躍することができることとなります。皆さんの勉強で記憶した知識は、まず脳の中心部にある海馬というところに入って、それで2、3日かけて記憶していきます。試験とかではこの記憶した内容を出して利用しているわけです。ところが、社会に出たら、記憶の脳だけでは物足りないです。この時にはどのように判断するか、どういう決断をするのか、それを決めるのは前頭前野の脳細胞です。だから、大学の秀才が、社会に出たら活躍できるとは限らないのです。秀才で、前頭前野の脳細胞が発達した者が、活躍できるわけです。皆さんには是非、この前頭前野の脳細胞を鍛えていただきたいのです。その前頭前野の脳細胞を鍛える方法は色々あるけれど、最も有効な方法は、将来に大きな夢を持って生きることです。だからこの竜の子財団では「その夢は、きっと世界を変えていく」ということを薦めているが、全くその通りです。毎日明るく、将来に大きな夢を持って生きてください。これで将来、必ず活躍できるはずですよ。

## 新入生代表挨拶

### 北海道大学 馮 岩飛



新入生を代表してスピーチする馮岩飛さん

この度は竜の子財団の奨学生に選んでいただき、誠にありがとうございました。私は中国の河北省出身で、現在北海道大学で中国の農村観光について勉強しております。私は生まれも育ちも、山奥の中にある小さな農村でした。来日して6年が経過していますが、学生生活を送りながら、常に心の中にあるのは、若者が段々少なくなり、疲弊しつつあるふるさとの存在です。ほかの国のことを知れば知るほど、逆に自国のことをよく理解できるようになると、私は感じています。留学できたことにより、視野が広がると同時に、自分のルーツに誇りを持つようになりました。これは私が今の研究テーマを選んだ理由でもあります。

今の中国では都市化が進んでおり、農村地域を持続可能にするには、観光が一つ重要な手段であります。観光の仕組みがどのように農村住民の都市化と、農村地域の持続可能な発展につながるの、私の主な研究内容です。私費留学生として、学費はもちろん、研究調査の費用も自分で捻出しなければなりません。

私を竜の子奨学生として選んでくださった、秋元理事長をはじめ、竜の子財団の関係者の皆様並びに寄付者の皆様のお力添えにより、私は経済面の不安を拭うことができ、学業に精一杯励むことが可能となりました。今後もより深い学識を身に付けるため日々邁進するつもりです。竜の子財団の皆様のご支援のもと、このような素晴らしい環境に身を置くことを、大変誇りに思います。この誇りを胸に、竜の子奨学生の名に恥じない研究生生活を送り、将来私は夢のある学生を支援する立場に立ち、竜の子財団の発展及び日中両国の相互理解に貢献したいと考えています。最後になりますが、この度奨学生にお選びいただき、誠にありがとうございました。

(担当：平成29年度竜の子奨学生 京都大学 梁 曉奔)

## ● 祝 賀 会 ●

平成30年3月16日（金）、竜の子奨学生9名が竜の子財団を卒業する日を迎えました。卒業生は着物の晴れ姿で入場し、秋元理事長から式辞と来賓代表からの挨拶をいただきました。

### 来賓代表挨拶

日本和装ホールディングス株式会社  
代表取締役社長 吉田 重久 様



吉田 重久様

卒業生の皆様、本日はご卒業おめでとうございます。秋元理事長をはじめ、関係の皆様の日頃のご苦労とご努力にはいつも感服しております。秋元理事長とお会いして、はじめて竜の子財団の話聞いてから本当に素晴らしい活動だと思っています。

皆さんはせっかく日本に留学されているので、今日は少しでも記念になればということで着物を着てもらいました。今日は、男性の袴姿ということをちょっと一つだけ勉強してほしいです。今私が着ているのは色付きの紋付で、卒業生が着ている黒がついた紋付です。この色紋付と黒紋付の違いですが見た目は、同じように紋が入っています。日本には、それぞれの家に家紋を持っていて、当社の社員の名刺には自分の家紋を入れています。家紋を持つという日本では、家紋を代々受け継いで行くという文化があります。色の話については、黒のほうが、大体お招きをする側の最高礼装といわれています。だから、結婚式で新郎新婦のお父様で黒紋付きを着るのは当たり前で、お招きする最高礼装、相手に対する思いやりの礼装です。今日、私はお招きいただきましたので、色紋付の袴を着ました。色紋付というのは、お招きいただいた側の最高礼装です。だから、皇居で天皇陛下から呼ばれるとか、園遊会とかで呼ばれると色紋付の袴の方が正しいです。

また、今日は特に女性の方がきれいです。振袖は日本の女性が二十歳の時着るものですが、二十歳でなくても着てもいい、結婚しても着ていいのです。秋元理事長が自分の私財を出してこの活動をするというときから、何か応援したいと思い、日本ではこのような文化があることを伝えたいという気持ちで、お話いたしました。

### 来賓挨拶兼乾杯

伊礼総合法律事務所

弁護士 伊礼 勇吉 様

竜の子財団の設立当初から、幹事をやっております。本日卒業された9名の皆さんおめでとうございます。日本で

は「卒業」という言葉がありますが、皆さんをご存知のように、英語ではCommencementという言葉がありまして、それは「卒業」であるとともに「始まり」でもあります。皆さんが社会を出てこれから活躍して立派なCommencement



伊礼 勇吉様

です。せっかく秋元理事長が心労を注いで作り上げたこの竜の子財団を通じて、皆さんは自分の国、全世界で活躍することが私たちの希望ですし、ぜひ頑張ってください。それから、本日竜の子奨学金を受け入れることになりました9名の皆さんおめでとうございます。先ほど小谷選考委員長の話のように、選考では競争が激しいです。皆さんは選考の先生方のお眼鏡にかなうよう、ぜひいい成果を上げてください。勉学以外も、日本のあらゆるジャンルを吸収していただきたいと思っております。

私の出身は沖縄＝昔の琉球国で、一つ有名なことわざがあります。「万国津梁」という言葉です。全ての国と仲良くして、懸け橋になるという大きな希望を伝えたい気持ちで、国の基本的な外交政策となっております。これを受けまして、皆さんは勉強と同時に日本と自分の国の架け橋になって頂きたいと思っております。

秋元理事長は大きな志を持っていて、何でも継続して、世界との大きな繋がりにしたいという言葉言っていました。また、皆さんに継続して奨学金を支給できるように尽力し、文部科学省を初め日本政府も評価致した財団法人です。皆さんは秋元理事長の大きな夢として国際交流の推進に取り組んでいただきたいと思っております。

### 来賓挨拶

株式会社小田急トラベル

山本 義治 様



山本 義治様

卒業生の皆さん本当に卒業おめでとうございます。ご縁がありまして、竜の子財団と平成19年から長きに渡りまして、ご利用いた

いております。最初は箱根の交流会から始まりまして、富士登山、そして京都、沖縄、広島など日本文化に触れてい

ただきながら、数多くの交流会を行いました。本当にご利用頂きましてありがとうございます。

卒業生の皆さんはこれから竜の子財団の理念に沿って、自国と日本の架け橋になるようになってください。また、世界平和ということですが、皆さんは体が資本ですから、ご自身の健康に気を付けて、これから頑張ってください。明日も交流会があるので、楽しみしてください。

## ビデオレター

東海大学 副学長

日本オリンピック委員会理事

全日本柔道連盟会長

NPO法人柔道教育ソリダリティー 理事長

評議員 山下 泰裕 様



山下 泰裕様

竜の子の卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。今年は残念ながら皆さんの卒業式に参加することができません。ビデオにて一言お祝いの言葉を述べさせていただきたいと思います。皆さんにとって、竜の子財団からの支援は学業、研究活動を励む中で、非常に大きな力になっていると思います。何度もありがたい気持ちがあると思います。この気持ちをこれからの人生の中でぜひ忘れないように活躍してほしいことを願っています。私は現在60歳、これまで人生の中で常に感じるのは、人から応援して頂いた時に、ありがたいという感謝の気持ちを持つのか、それとも、当たり前当然だと思うのか、これによって人の人生は大きく変わってしまう。私はこれまで色々な方々に何十年と支えられてきました。なぜこれ程多くの方々が私を応援してくれたのか、そう考えた時に、辿り着いた結論は、そういった様々の方々からのご支援に対していつもありがたいという気持ちを忘れないことが大きかったのではないかと思います。人は困ったときに、支援いただくと本当に感謝します。しかし、順調にいつているときには、それは相応しい人間で、当然だとそう思いがちです。ここが人生の大きな分かれ道になるのではないかと皆さんがこれから社会で活躍するときには、やはり多くの人のご協力とご支援が必要で、これからもこの感謝の気持ちを大事にして頑張ってください。

私は12年前に小さなNPO法人を立ち上げました。そのNPO法人を通して様々な発展途上国の方々と柔道で交流、支援をしてまいりました。これらの交流を通して多くの国々の人と信頼関係を築くことができました。日本で学んだ皆さんが、今後大きく成長され、自分の母国の大きな

力になると同時に、それらの国と日本を結ぶ懸け橋になってくれるとありがたいです。そうしたら、皆さんを支援している秋元理事長をはじめ、多くの支援の方々が喜ばれると思っています。今後、皆様のますますのご活躍とご発展を記念してお祝いのメッセージをさせていただきます。

## 来賓挨拶

株式会社リブアクション

代表取締役 宮本 宏三 様



宮本 宏三様

竜の子財団を知ることになり、寄付させていただきました。今回卒業される皆さん、おめでとうございます。また新しく竜の子財団に入られる方、おめでとうございます。私はこの前の交流会の時、浅草で人力車に乗らせていただいたり、また提灯の製作をさせていただきました。東京暮らしは長いのですが、人力車に乗ったこともないですし、あんなに面白いものだというを知らなくて、浅草を満喫することができました。皆さん交流会で色んなところに行かれますが、日本人でも知らないようなことを経験されていることをぜひ肝に銘じてほしいです。

ここに飾ってある照明は職業柄分かるのですが、100年ぐらい前の商品です。家にもニューヨークの建設現場の100年ぐらい前の照明がありますが、ちょっと作りが似ています。なかなかこのオーナーさん結構照明にこだわっていらっしゃると思います。着物や着付けもご提供いただいておりますが、着物とかこういったインテリアも少し理解が深まると、また違った見方が出来ると思います。

今日は色んな意味で勇気を頂いて、リフレッシュすることもできました。ありがとうございました。

## ゲスト

シンガーソングライター

Rio 様



Rio様

『ホタル』はこのつながりが希薄な世のなか、つながりを大事に、みんなで一つになろうよという歌です。人生においては、つながりがなければ、何もできないし、逆につながりさえあれば、なんでもできるのではないかと私は信じています。強いつながりさえ持っていれば、そしてもう一つ、強い信念さえ持っていれば、きっとみんなの夢は叶うと思います。ぜひ強い信念と強いつながりを大事にして、これからの人生を送ってください。

閉会の挨拶

横田 敦子 副選考委員長

私は東京外国語大学で留学生に日本語を25年ほど教えていて、数年前に定年退職し、今はのんびり生活しています。今自分の人生を振り返ってみると、あの人に会わなかったら今の自分はなかったとか、あの場所にいなかったならば、違う人生を歩んでいたのかとか、人生のターニングポイントというものがあったと考えさせられます。竜の子奨学生の皆さんにとっても、やはりそういうターニングポイントがあると思いますが、日本に留学した事も大きなターニングポイントであると思います。これから皆さん日本に残って研究、勉学そして仕事する方、また母国



横田 敦子様

に帰って仕事をする方、または外国に行って勉強や研究や仕事をする方もいるかもしれません。そういう皆さんには、他の人にはない大きなチャンスが待っていると思います。それは皆さんが日本に留学したことを通して、他の人にはない、大変な経験をたくさんしたからです。それで、これから訪れるチャンスを活かすかどうかは、勉学や研究の実力とともに人に信頼され、この人だったら一緒に仕事をしたいと思われるような人間力をつけることにかかっています。これからそれぞれの専門分野で実力を養うとともに人間力というものを磨いてください。みなさまのご健康とご発展を祈念して、竜の子財団第11回卒業式、第12回贈呈式の終わりの挨拶とさせていただきます。

(担当：平成29年度竜の子奨学生 東京工業大学 朴 相源 / 平成30年度竜の子奨学生 北海道大学 王 佳寧)

● 八景島シーパラダイス ●

平成30年3月17日(土)に竜の子奨学生の第34回交流会は横浜で行われました。朝、新宿三目で集合し、遊園地と水族館を一度に味わえる八景島シーパラダイスを見学しました。海の中にあるような気分になれる水族館や、海に落ちそうなほどスリルがあるジェットコースター、美味しいバーベキューなどで一日中満喫しました。



人気の海上走行コースター



水族館



アクアライド



BBQ



一日が終わった記念写真

(担当：平成30年度竜の子奨学生 電気通信大学 曹 妍)



## 平成30年度新入生紹介 「尊敬する人」

「あなたの尊敬する人は誰？」自分の尊敬する人がいるかないかで、人生は大きく変わってくることでしょう。尊敬する人がいれば、自分のそのような人になりたいという気持ちが生まれ、日々努力できます。ここで、新入生たちに「尊敬する人」について語ってもらいましょう。



ヒョウ ガンヒ  
**馮 岩飛**  
(中国出身)  
北海道大学  
国際広報メディア観光研究科  
観光創造専攻  
修士3年

私は「恩師」を尊敬しています。初対面の日から、先生の情熱と明察と親切に感銘を受け続けています。まず、先生の研究に対する情熱。地域社会の持続性を常に念頭に置き、偏見を排して所信を断行するという研究の姿勢を貫いています。「自分の研究で人々に勇気をあたえ、幸せにすることができれば一番の研究成果だ」という研究の目的に私の心が動かされました。そして、異邦人の私の拙い日本語を聞いて、すぐに理解してくれるだけでなく、うまく表現できなかったものを再修正し、整理してくれることは、私の感謝に堪えぬところであります。最後に、私が困難に見舞われ、やめる気になった時の先生の大喝一声で目が覚めたと同時に先生の変った親切を感じ取りました。先生の薫陶を受けながら、研究に対する情熱を身に付き、私に対する明察と親切にお応えできるよう頑張ります。



オウ カネイ  
**王 佳寧**  
(中国出身)  
北海道大学  
教育研究科  
教育行政学専攻  
修士2年

私の尊敬する人はたくさんいます。その中に皆さんがよく知られるのはフィギュアスケート選手「羽生結弦」です。たぶん多くの人と同じように、最初は羽生選手の安定した顔に癒され、惚れました。しかし、知れば知るほど羽生選手の才能と人柄に魅せられました。

羽生選手は幼い頃から喘息持ちで体が弱かったらしいが、自分が好きなスケートはどれほど辛くても諦めず、怪我をしたにも関わらず演技を続けています。また、東日本大震災の被災者として、これまで自分の故郷に対する多くの支援活動に取り組んできました。彼の恩返しと思いを考えると自分の心も温かくなるような気がします。中国では「窮則独善其身、達則兼济天下（訳：貧窮したなら、一人その身を修養する。栄達したなら天下を救済する）」ということわざがあり、自分も羽生選手のような周りの人に役に立つように頑張っていきたいです。



チョウ セイヨウ  
**張 政陽**  
(中国出身)  
東北大学  
環境科学専攻  
先進社会環境学専攻  
修士2年

尊敬とは尊いものとして敬うと解釈されますが、そもそも、尊いには「神聖」、「極めて価値が高い」、「高德」という意味を持っており、我々が自発的に相手の価値を認め、敬意を払いたいのは、相手の優れた人格だからと信じています。こうした心から自然と湧いてくる気持ちは権力や恐れさ、お金等ではどうにもできません。

私は「現在の指導教員」を非常に尊敬しています。先生が研究に対して果敢に挑み、好奇心と意欲が旺盛で、高度な専門知識を持っていながらも、継続して真摯に一途に取り組み、それを極めようとする姿勢が伺われます。また、先生が公明正大、兼愛無私、率先垂範、徳量寛大、学生の個性を活かしつつ小まめに指導を行う教育者としての美徳も伝わっています。従って、私は自分の社会的役割をしっかり果たしつつ人の手本になることを望みます。



ソウ ケン  
**曹 妍**  
(中国出身)  
電気通信大学  
情報理工学専攻  
情報ネットワーク専攻  
修士2年

私が尊敬する人物は「木村拓哉」です。

外見だけではなく、負けず嫌いな性格で尊敬になりました。ジャニーズ事務所の元アイドルグループ「SMAP」のメンバーです。これまで多くの職業を演じ、木村拓哉のドラマを見て実際にその職業についてという視聴者が現れるほどの影響力を持ちます。その理由は人によって違いますけど、私は失敗を恐れず、目標に向けて努力する姿に魅力を感じたからです。例えば、ロングバケーションでピアニストの役なら、収録までに努力して、一曲は完璧に弾けるように練習して行きました。

木村拓哉が主演した「HERO」「GOOD LUCK!!」といったドラマを見て、仕事に対して日本人の真面目さと責任感の強さに感動しました。日本の大学院で、情報技術に関する専門知識を身に付けて、将来主人公のように責任と情熱を持って、生き生き働きたいと思っています。



タバ マガル  
THAPA MAGAR  
プナム  
PUNAM

(ネパール出身)  
東京電機大学  
理工学部 2年

夢？正直に言うと、小さい頃夢という言葉もしらない私にとってはそれを教えてくれたのは両親で、世界で私の最も尊敬する人は私の「両親」です。世界中の多くの子どもたちは両親がいないです。私のためにすべての事を行ってくれて、私は間違いなくそれを尊敬しています。最初に文字から始まり、私に住む家、着る衣服、食べ物そして私が求めるものを与えてくれました。一度も大学に通うチャンスがなかった両親は、私が学校の勉強に集中できるように、私が高校生の際に一度もアルバイトをさせず、今日まで育ててくれました。今の私があるのは、両親のおかげです。私の夢が叶えられるようにいつも私を応援してくれます。私の両親にとって私は自分自身がより良い人間になることが大事です。今まで色々お世話をしてくれた両親のためにいつか同じことができることを願っています。



キン エキグン  
金 奕群

(中国出身)  
早稲田大学  
商学研究科  
商学専攻  
博士1年

医薬品会社の営業職を辞めてからお金を稼ぐために、「Brad Stevens」はファミレスで働いていました。当時の年収がわずか\$18Kでした。その話も18年前のものでした。バスケの夢をどうしても諦められなくて、ファミレスで働きながらボランティアとしてバトラー大学のバスケットチームでコーチングアシスタントも勤めました。2007年に同大学のヘッドコーチとなって、2009～2010の2年間は連続でNCAAトーナメントの決勝進出に導きました。彼の才能がプロチームのマネージャに気づかれて、2013年からNBAチームのセルティックスのヘッドコーチに就任して、2017と2018年に終わったシーズンで、新人だらけのチームをカンファレンス決勝まで導きました。

彼のことをとても尊敬している理由はやはり夢を諦めないところです。現段階の自分も大卒してから「ろくな仕事」をせずに、自分の人生を何かに賭けているようです。勝利の確率を高めるために、これからも頑張ります。



リュウ エイ  
劉 叡

(中国出身)  
名古屋大学  
環境学研究科  
社会環境学専攻  
修士2年

私は尊敬しているのは、実は人間ではなく、「犬のクイール」です。私は日本語の授業で、「盲導犬クイールの一生」という映画を見て、心は大きく動かされました。映画の中で、盲導犬のクイールは、事故に遭って目が不自由になった渡辺さんの目となり、渡辺さんが亡くなるその日まで、彼の傍らで彼に尽くしていました。渡辺さんにとって、クイールは動物でありながら、家族を超えるといえる大切な存在です。そして、渡辺さんが亡くなった数日後、クイールも自分の使命を果たし終えたかのように穏やかに呼吸を止めました。

クイールは人間ではありませんが、十分に自分の使命を果たしたと思います。「人は一体何のために生きるのか」、その答えをクイールが私に教えてくれました。天国にいるクイールを本当に尊敬しています。クイール、ありがとう。天国で渡辺さんと幸せにね！



イム ウヒョン  
林 佑炫

(韓国出身)  
京都大学  
理学研究科  
物理・宇宙物理学専攻  
修士1年

数年前、「コスモス」という天文学の本を読む機会がありました。少し厚めの本でしたが、一般人むけに読みやすく書かれていて、本から離れるのが惜しいと思いつつ夢中になって読んだ記憶があります。著者の「カール・セーガン」は天文学者でありながら、科学と人文の大衆化に大きく貢献した人物です。この著書にもそれがよく現れていて、宇宙はどれほど広大なのか、また、宇宙に比べるとはるかに小さい地球で我々はちっぽけなことで立ち止まったり争ったりしているのか、など様々なことを考えさせられました。カール・セーガンは本やテレビを通じて科学を一般に広げるとともに核戦争の危険さを米大統領に助言するなど、数々の業績を残しています。いつか彼のように専門性と豊富な教養を持ち、他人に夢を与えることができるようになりたいと思います。



サイ レイカ  
崔 麗華

(中国出身)  
京都大学  
農学研究科  
森林科学専攻  
修士2年

初めて「柴田先生」に会った時を忘れられません。古本屋のような部屋からぶ厚いメガネをかけた先生が「お、無事に来ましたね」と、狭い通路をとおりながら挨拶してくれました。そのとき先生のイメージは想像でしか見たことのない本当の学者でした。そのときから柴田先生はなんとなく自分の中で一番尊敬する研究者になりました。

研究の指導者として先生は学生たちが自由に思考するよう励まします。当然無理な研究計画を立てても先生は、面白いね、できればいいねといってくれます。先生はいつも、間違えてもいいので大胆に考えて試してみるのが大事だと私たちを教えます。研究の面だけではなく研究室のお父さんとして、生活や進路、または恋愛相談に忙しいです。お正月は実家に帰らない学生、特に留学生を自宅に呼んで先生の家族と一緒に過ごします。

柴田先生のように大胆に挑戦できる研究者、また心も温かい人になれればと思います。

## 竜の子近況報告



就職先の現場実務教育

ムン キルジュ  
文 吉周 (韓国)  
九州大学 工学府研究科  
機械工学専攻 博士3年

### 「就職先の現場実務教育に行ってきました」

皆さん、こんにちは^^ 私は5月に卒業後の就職先である現代製鉄（ヒョンダイ製鉄）で現場実務教育を受けました。1週間の教育では、今後配属される部署での仕事を入社前に体験し、工場を見学しました。この経験を通じて入社後には早く慣れることができると思います。最近では、博士課程卒業を目指して博士論文をまとめています。論文の執筆は終わって6月末に予定されているDefenceを準備しています。今学期で卒業できるように頑張ります。



パリのルーヴル美術館にて撮影

チョウ セイヨウ  
張 政陽 (中国)  
東北大学 環境科学専攻  
先進社会環境学専攻 博士2年

### 「至福の癒し旅」

国際学会発表のため、5月にVienna、ParisとMetzに訪れていました。本場のビールや焼き肉、チーズも味わえ、憧れのウィーン国立オペラ座でコンサートを観て音楽にうっとり聞き惚れていました。またこの旅を通じて、心の奥底に潜む自分の欲求に従って素直に生きることが、幸せな人生を過ごす大切なポイントと強く感じました。“真実、自然”な自分こそが最も美しいです。一方、我々が常に広い視野で物事の関連性を考えれば、より高い自己価値が生み出せると改めて認識しました。



マレーシアからの留学生サポーターと一緒に働く姿(本人:右)

オウ カネイ  
王 佳寧 (中国)  
北海道大学 教育研究科  
教育行政学専攻 修士2年

### 「国際交流の楽しさを名残惜しい」

北海道大学で留学生に対する情報提供・助言を行うために、「留学生サポートデスク」が設置されています。国際交流に興味を持っている私は、去年6月からスタッフとしてサポートデスクで働き始めました。この一年間、様々な国からの留学生に出会って、留学生を助けるとともに、自分のコミュニケーション能力、責任感と自信も向上できると実感しました。また、他のスタッフと一緒にイベントを企画したり、お互いのアイデアを出し合ったりしたことで多くの友達もできました。

しかし、最大一年間の勤務時間が原則となるため、先月は最終日を迎えました。大好きなバイト先を離れるのは寂しいが、サポートデスクで積み重ねた経験を活かしながら、これからも国際交流に自分なりの力を入れようと思います。



深セン大学の前で撮った写真

リュウ エイ  
劉 睿 (中国)  
名古屋大学 環境学研究科  
社会環境学専攻 修士2年

### 「ボクシングをはじめました！」

竜の子奨学生の皆さん～お久しぶりですね！名古屋はとっても蒸し暑く、毎日の汗の量が半端ないです。今年の3月から体を鍛えようと思い、名古屋栄駅にある暗闇ボクシングをやりはじめました！1時間のコースで思い切りサンドバックを打ち込むことができます！最初は死ぬほどきつくてまったく追いつかなかったのですが、だんだんコースに慣れてきましたので、今週4回ぐらい通っています。また、夏といたら水泳です！同じ3月からスポーツセンターで水泳の授業にも参加させていただきました。クロールはもちろん、今は背泳ぎも簡単にできちゃいます！



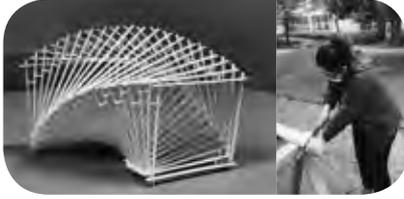
香川県金刀比羅神社にて

コ セイヒ  
胡 政飛 (中国)  
北海道大学 文学研究科  
人間システム科学専攻 博士3年

### 「山登りに行こう」

研究や論文を置いて、ゴールデンウィークに友達と憧れの四国に旅行に行ってきました。みかんやうどん、晴れながら荒れていた瀬戸内海に癒やされました。再び、あまりうまくいかない研究と向き合いながら少しずつ進んでいるようになりました。プログラムはまだ難関の一つです。せめても読めるように頑張っています。

旅行に帰って来てからは、ほぼ毎日パソコンの前で何かを書いたり、読んだりすることばかりです。一シーズンで鍛えた体がまた硬くなった感じました。冬は頂上から下り運動、夏は麓から上り運動をしようかと思っています。ひとまず、札幌近郊のやさしい山をもう一回クリアします。もしかしたら、自然からパワーをもらって、いい論文をかけるようになるかもしれません。



作製途中の写真

### タパマガルプナム (ネパール)

東京電機大学  
理工学部 2年

## 「私の近況」

今年から2年生になり、専門的な勉強も始まりました。建築技術を学んでいます。時間が空いているときに、図書館で勉強したり、先生方の研究室に行って相談にのっていただいています。

うれしい事に、最近、建築デザイン演習という授業で私のデザインがトップ10に選ばれ、その模型が原寸大で建築されることになりました。今はクラスメイトと協力しながら作品の作業をしています。これからも精一杯頑張っていきたいと思っています。



家近くの蒸し焼き料理店にて

### キン エキガン 金 奕群 (中国)

早稲田大学 商学研究科  
商学専攻 博士1年

## 「野菜の蒸し焼き」

天気がだんだん暑くなって、味が濃い料理をずっと食べることも飽きました。最近、野菜の蒸し焼きがやみつきになって、おかげさまで5キロぐらい痩せました。(まったく運動していません)

勉強面について、春学期に研究指導を2セメスター終了しますので、7月最終週まで論文指導委員会設置申請書の提出と論文指導委員会の設置が要求されています。そのため、自分の所で4月から6月まで論文の「読書マラソン」を実施しました。これからの1ヶ月は感想をまとめて、具体的な計画を立てようと考えています。いろいろが無事に終るように。



鹿児島で学会発表を行いました。

### ソウ ケン 曹 妍 (中国)

電気通信大学 情報理工学専攻  
情報ネットワーク専攻 修士2年

## 「就職活動と修論で頑張っています」

私は今年4月から修士2年生になりました。博士課程に行かず、就職することに決めました。これまで学んできた情報技術を活用し、日本のIT企業かメーカー企業に就職したいと考えました。それから、私は会社説明会を聞き、多くの企業の選考を受けました。就職活動を通じて失敗を恐れず、やればできると感じるようになりました。幸いIT系企業に内定をいただき、来年4月東京で仕事を始めます。また、あと半年修士論文に向けて頑張ります！



春休みバリに行った時です

### タン インチャン (マレーシア)

筑波大学 社会・国際学群  
社会学類 学部3年

## 「卒業間近の学生のジレンマ」

皆さん、こんにちは！卒業間近になると、卒論や卒業後の準備、試験など、色んな課題に追われるようになります。これらの課題をこなすのは簡単ではなく、毎日がチャレンジです。それでも、人生に成功するために、頑張らないといけません。さらに、サッカーのワールドカップの最中なので、これらの課題に集中するのは非常に難しいです。でも、4年に一度のことなので、しょうがないでしょうか？



国際交流会の方と盆踊りでの写真です

### マハウオンウィリヤ・スタシニー (タイ)

東海大学 教養学部 国際学科  
学部4年

## 「日本の夏はいつまでも慣れない」

今年の夏は盆踊りだったり、平塚市の七夕まつりの飾り作りなどたくさん日本文化を体験しました！私は今年の4月から就活と卒論で毎日忙しいですが、その結果として6月に無事に第一志望企業から内定をいただき、卒論も形になってきました。内定先ですが、東京にある翻訳・通訳会社です。もちろん私が学んだ専門知識も活かせるし、頑張ってきた英語と日本語も活かせるので、とても楽しみにしております。



沖縄の海にて

ヒョウ ガンヒ  
**馮 岩飛 (中国)**

北海道大学 国際広報メディア観光研究科  
観光創造専攻 博士3年

## 「健康維持に努めています」

6月21日は夏至の日で、1年中最もお昼の時間がなく、いよいよ本格的な夏を迎えますが(札幌は全然ですけれど)、皆さんいかがお過ごしでしょうか。

4月に私は結婚しまして、独身生活に別れを告げ、これから両肩にかかっている責任を自覚して頑張らなければいけません。披露宴や結婚式などの準備で大変疲れましたが、体重が逆に増えてしまいました。ですので、最近は食べ物の量と質に意識しながら、規律ある生活を維持しています。お腹が空いて食べ物に目がない「自分」と食べ過ぎて罪悪感を覚える「自分」と、意識のある私、この3人が仲良しでい続けるようやってみましたら、意識の無い体に優しくすれば、必ず良いフィードバックがもらえることをしみじみ感じています。

いつも夏痩せする私にとって、この扇風機さえいらぬほど涼しい北海道の夏は最高です。



就活が終わり大阪に遊びにきました

**グエン ヴ タオ グエ (ベトナム)**

立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部  
アジア太平洋学科 学部4年

## 「そろそろ卒論します！」

私は4月から就活と卒論の両方でずっと忙しく過ごしてきました。お陰で、5月の下旬に内定先が決まり、卒論もだんだん進んでいます。そして、10月から入社することになりましたので社会人になる準備もいろいろ大変ですが、頑張っています。

内定先についてですが、第一希望した旅行業界ではなく教育関係の企業となりました。就活の中で将来についてより深く考えさせられ、そこで自分が共感する価値観を持つ会社を見つけました。これからも学んだ広報の知識を活かし、仕事を頑張りたいと思います。

ちなみに配属先は大阪です。



子供と私、大宰府に旅行しました

ホウ メイ  
**方 梅 (中国)**

九州大学大学院 医学研究科  
神経内科学専攻 博士4年

## 「二次投稿に向けて頑張っています」

竜の子財団のみなさん、久しぶりです。今年4月、英文一流雑誌Acta Neuropathologicaに投稿しました。インパクトファクターが高く、一ヶ月の審査を通して、多くのアドバイスを受けました。専門審査の資格を取得したにもかかわらず、最終結果は論文の受け入りを断られました。一次投稿で通りませんでしたので、いま他の雑誌社に向けて、二次投稿を準備しております。主人は今年の10月から中国の臨床医師に就職し、次は私が卒業に向けて頑張っています。将来中国での新しい生活を期待しております。



出張先の研究室の集合写真(本人後列中央)

パク サンウォン  
**朴 相源 (韓国)**

東京工業大学 物質理工学院  
材料系専攻 博士2年

## 「マディソンへの出張」

私は今年の頭に共同研究をしている先生がいらっしゃるアメリカのウィスコンシン大学マディソンに行ってきました。ウィスコンシン州はシカゴのあるイリノイ州の隣にある州で冬はマイナス20℃を平気で味わえるところ。乳製品とビールが美味しいところで、飲み比べに夢中でした。出張先との共同研究に関する論文もほぼ出来上がって8月当りに投稿する予定です。立派な一人前の研究者になるため頑張っていきたいと思っています！



舞妓さんと留学生達の写真(本人後列右端から3番目)

パク ユンシク  
**朴 胤植 (韓国)**

東京工業大学 理工学研究科  
科学工学専攻 博士4年

## 「京都と奈良に行ってきた！」

学校で文化交流の体験一環として、京都に旅行に行くツアーがあります。様々な国の留学生達の中で助長に選ばれて、本当に行きたかった京都と奈良に行ってきた。2018年上半期の中で一番幸せな時間でした。7月末と8月には、プラズマ国際学会と国際合同セミナーに相次いで参加して研究結果を発表する予定です。この研究内容をまとめてジャーナルに掲載する予定です。これからも日常生活を充実させ、幸せな思い出を作りたいと思います。



研究室での研究発表準備

**ユルダシェヴ・サドラ・ヌルラエビッチ  
(ウズベキスタン)**

名古屋大学大学院 国際開発研究科  
国際協力専攻 博士3年

「**大学院卒業に向けて**」

大学院生活の過ごし方は専門分野により方法が少し違うかもしれませんが、文系の場合はほとんどが研究調査であったり、学会発表であったりします。従って、その道での成果によって楽しい時もありますし、苦しい時もあります。

現在、私は7月下旬の大学院博士1年報告会に向けて準備をしているところです。これまでの研究経過として揃えた資料や学術理論に基づいた研究をフレームにして、報告発表に許可を得るまで一年間も経ちました。これからは、先週のゼミ発表で指導教員やゼミフェローから受けたコメントに従って、論文の修正をし、来月の中旬までに提出したいと思っています。これからも頑張っていきたいです!!



庭で友達とピクニック

サイ レイカ  
**崔 麗華 (中国)**

京都大学 農学研究科  
森林科学専攻 修士2年

「**庭を造りました**」

今年の春から家の前にある草だらけだった空き地（ちゃんと許可もらいました）を整理して庭を造っています。カボチャやトウモロコシなどさまざまな野菜も育てています。オーガニック農園を目指して毎朝虫を取ったり、水やりをしたりしています。暑い夏の夜を涼しく過ごすために竹を使ってテントも作りました。週末は友達を呼んで庭でお茶会をします。都市農園、都市のなかで自然を楽しむ、そしておいしい食べ物も収穫できる、ということでこれからの研究テーマとして考えています。



さすがにこれと自撮りを撮る発想はない。縁起悪いからね。

リョウ ギョウエキ  
**梁 暁奔 (中国)**

京都大学 文学研究科  
歴史文化学専攻 博士4年

「**最近の楽しみ**」

テレビでご覧になった方もいらっしゃると思いますが、今年の5月に入ってから京都大学は市の規制を受けて、京大生が大学周辺地域に設置した看板（通称「タテカン」）を撤去した。これが「表現の自由の侵害」として一部の京大生の反発を買い、大学側に対抗し新たな看板を設置し、それがまた撤去される羽目になる。この駆け引きを最近の楽しみとして見ています。なかでも京大生が「この看板を撤去したら呪われますよ」という意味の看板を出したことがありました（もちろんすぐに撤去されたが）。私は研究で本物の「呪符」という資料を扱うことがあったのでそれを見た途端、笑いが止まらなかったのです。



研究室にて論文の調査中

イム ウヒョン  
**林 佑炫 (韓国)**

京都大学 理学研究科  
物理・宇宙物理学専攻 修士1年

「**こつこつ大学院生活を送っています**」

4月から修士課程過ごしています。学部のとときは異なる研究分野なこともあって新しい知識を頭に入れる毎日です。わからないことが目の前に一気に広がって、その膨大さに時々焦りを感じることもありますが、めげずに地道に続けていけばいつの間にか成長しているのではないかと思います。平日は主に研究室ですが、週末は自転車で京都の色んな所を見回ったりします。どこに行っても近くに自然と伝統があってとても心地よくて、次はどういう新しい場所に遭遇するかが楽しみです。



休み中に友達と遊びに行きました（本人左）

**チャンポーバックディー・インオン(タイ)**

東海大学 工学研究科  
医用生体工学専攻 修士1年

「**大学院生活を楽しんでいます**」

今年の3月に学部を卒業し、4月から大学院生の生活が始まりました。学部生の時よりも知識が高まり、大学院の授業を受けながら、研究に集中して頑張っています。修士課程に進学して本当に良かったと思いました。

今年の7月にアメリカにて行われる学会に結果を出して、その論文を受け取っていたため、発表しに行きます。初めての海外学会なので色々な準備が必要でしたが、やっと落ち着いて全ての準備が完了しました。久しぶりに英語使いますので、とても緊張しますが、頑張っていってきます!



## 竜の子(OB・OG)近況報告



バルセロナのビーチにて

シュリン  
**朱 琳** (中国出身)  
東京外国語大学卒業

### 「転職しました」

5月から3年間働いたIT業界から出て、エンタテインメント業界へ転職しました。新しい業界でなんでも新しく、3年間の社会人経験を持っているとはいえ、なんでも最初から勉強しなければなりません。今は毎日楽しくて新しい刺激を受けているところです。

皆さま、本当にお久しぶりです。facebookをあまりやっていないですが、まだまだ日本にいますよ。またチャンスがあったら、ぜひ皆さまと会いたいです！



息子とロッセタワーの水族館で

キムウンハ  
**金 恩河** (韓国出身)  
筑波大学大学院卒業

### 「育児と仕事頑張っています」

5年間も竜の子財団に経済的・精神的にサポートをいただき、2017年の3月無事博士号を取得しました。この報告は去年の会報誌に報告すべきでしたが、韓国に帰国し、息子も生まれ色々忙しかった1年でした。

2018年の今は大学で時間講師として講義をしたり、先生方と研究を続けています。また家では育児と家事を頑張っていますが、なかなか難しいです。日本での一人生活が長かったのが家族と一緒にいる幸せを満喫していますが、たまには逆に一人になってゆっくりしたいと思っています。

夏の交流会とOB会がとても思い出に残っていて、次のOB会を楽しみにしています。)



新入社員の研修のとき、同期との飲み会  
(本人2列目左端)

トウテンリ  
**唐 天利** (中国出身)  
明治大学卒業

### 「社会人になりました」

今年の4月から社会人になりました。仕事もビジネスマナーも分からないことがたくさんありますので、今頑張って学んでいます。また、配属は神戸になりました。上司や先輩たちはよく方言を使いますので、日本語が分からない時もたくさんありました。方言は難しいですね。いろいろなことがあって大変でしたが、これからも頑張ります。



左から指導教官、論文と私

キンヨウカ  
**金 香花** (中国出身)  
京都大学大学院卒業

### 「身分変換」

5月23日に、博士学位が授与され、京都大学文学研究科で実施している教員養成プログラムに参加しています。

学生として学ぶこととまた異なり、教えることを実際に学部生向けに授業をしながら学んでいます。自分が知っているからといって、必ずしも上手く教えられるわけではないことを痛感しながら、伝えることに対して考える毎日です。また、学生の時からしてきた松山高吉の共同研究の継続しています。

少し緩い緊張感の中で、研究と教えることの両方ができるようになったら、また新たな夢に向かって走ります。

(担当：平成29年度竜の子奨学生 東海大学 マハウオンウィリヤ・スタシニー)

## SPECIAL REPORT

## ● お金はもういらぬ中国社会 ●

誤解を招くタイトルとなっていますが、ここで述べられている「お金」は「富」を指していません、狭義の「キャッシュ」を意味しています。

去年の12月末にいったん実家に帰って、1週間ぐらい過ごしました。1週間しかありませんでしたので、携帯電話の契約を結びませんでした。いわゆる「電波難民」になって、自分のスマホをどこかのWi-Fiにつながらないと、送信と発信すらできませんでした。2、3年前だったら、メッセージを送ることはもちろん無理ですが、電話したいときに公衆電話は一応使えますのでまだ大丈夫でした。最近モバイル決済等の機能が普及されてきたことで、スマホが社会インフラのように進化していたことを痛切に感じました。

帰った後の2日目に、1人で朝飯の料理屋さん（屋台のような所）に行きました。油条（細長い型の揚げパン）とソヤミルク（合計15元ぐらい）を注文して食べ終わった後に、モバイル通信ができない私は現金で払おうと思いましたが、額面が100元（人民元が一番大きい額面です。2018年6月のレートで換算すると約1700円です）の紙幣を渡しました。しかし、店主にめちゃくちゃ嫌な顔されて、文句を言われました。その100元の紙幣も何回ぐらいニセ札かどうか確認されました。やはり、ずっと調理している店側の人にとって現金払いの客にお釣りを出すことは手間もかかります。



「支付宝（アリペイ）」と「微信支付（WeChatPay）」の決済システムが設置されているお店の様子  
撮影場所：おうち周りの八百屋さん

当然、その店はモバイル決済のシステムも何ヶ月前から導入されました。「システムが導入された」といっても、モバイル決済用のQRコードを紙にプリントアウトして、店先に掲げるだけです。そのQRコードをスマホアプリでスキャンするだけで、客が送金、店が代金を受け取って、決済が完了します。紙幣または硬貨をまったく使用していません。受け取った金額を現金に換金するためには、中国国内に銀行口座が必要だそうですが、その金額をほかの場所で使いたい場合、口座がなくてもできます。使用されているスマホアプリは現在主に2つ存在しています。それぞれは、電子商取引大手のアリババ系の「支付宝（アリペイ）」と、IT大手の騰訊（テンセント）系の「微信支付（WeChatPay）」です。両方とも、各分野で独占し

ているようにシェアを持っています。私の場合ではあんまり実家で通販を使う機会が少ないので、アリペイのアカウントを持っていません。WeChatPayはWeChatというメッセージングアプリ（LINEのようなもの）に付属していますので、WeChatを使用する人は大体WeChatPayも使用しています。

決済機能以外に、預かっているお金で投資商品を購入して、投資することもできます。一定期間内に、一定のリターンを獲得できるリスクが低いものからリターンがかなり変動しているリスクが高いものまで品揃えが豊富です。私の場合では日本にいる時に人民元を使う場所がなかなかありませんので、WeChat内のお金で何等かの投資商品を買います。中国に帰る前に、それを現金に換金して、利息は小銭ぐらいとして十分です。

日本に戻った後に、成田空港のコンビニでお茶を買おうと思いました。財布を鞆の中から出すのが面倒なので、PASMOで決済しました。7年前の気持ちを思い出しました。最初に日本に来た時に、PASMOとスイカがどの県でも使えることに

「とても便利だ」と感動しました。現在、個人的な習慣ですが、少額の支払いで

したできるだけ交通系ICカードを使用して、多額の支払いでしたらクレジットカードを使用しています。そう考えると、「キャッシュ主義」と言われている日本社会においても電子マネーとクレジットカードを生かせば、自ら「キャッシュレス化」を実現できます。電子マネーのようなモバイル決済の代替手段が充実していることはモバイル決済の推進を「妨害」しているかもしれません。



果物の青空市場でもモバイル決済を使用できます。  
撮影場所：家近くの青空市場



投資商品を選択する際の操作画面（パーセンテージの数値は年次に換算された投資収益率を表しています）  
出所：筆者のスクリーンショット

## 編集後記

委員長 東京工業大学 バウ サンワシ 朴 相源

この度、竜の子奨学生の第22号会報誌の編集委員長を務めさせていただきました。私が日本で暮らすのは約10年目となるのですが、会報誌の編集という作業は初めてで貴重な経験をすることができました。スケジュールを調整していただいた加藤さんをはじめ、編集にあたって大きい力を貸していただいた岡さん、そして協力くださった竜の子奨学生の皆様、ありがとうございました。今回の編集委員は皆すごい仕事ぶり、会報誌をスムーズに完成することができてました！竜の子財団関係者皆様が楽しく読んでいただけたら幸いです。

副委員長 電気通信大学 ソウ ケン 曹 妍

この度、「竜の子奨学生」会報誌第22号の副委員長を務めさせていただき、ありがとうございました。私は編集の経験がなく、最初は編集の進め方や日本語などを心配しました。しかし、編集員の皆様から色々なサポートをいただき、非常に有意義な時間を過ごしました。

私は「新入生紹介」を担当しており、新入生の皆さんとメールで連絡し、コミュニケーション能力を高めることができました。また、編集会議の中で、会報誌の取材などを議論し、収集した文章を添削することで、日本語力だけでなく、チームワークを身に付けました。最後に、留学生活を支えてくれた竜の子財団の関係者と寄付者の方に感謝を申し上げます。

委員 京都大学 リョウ キョウウエキ 梁 曉羿

この度22回竜の子奨学生会誌の編集に携わらせていただき、大変興味深い経験をしました。文系の私にとって論文が添削されることは日常茶飯事ですが、編集者として参加することは大変新鮮な感覚でした。博論を書くことで手一杯なのでそれほど仕事しませんが、カバーしてくださった編集委員の方々に感謝の気持ちを申し上げます。また、助けてくださった岡様、いつもお世話になっていた加藤様にもお礼申し上げます。

委員 東海大学 マハウオンウィリヤ・スタシニー

この度は会報誌の編集を担当させて頂き、非常にいい勉強になりました。会報誌作成に参加するのは2度目ですが、今回は近況報告を担当させて頂きましたので、また違った形で貴重な経験ができました。交流会では会ったことのあるメンバーなんですが、こうして一緒に何かを作ることによって前より仲良くなりました。竜の子奨学生になったおかげで、素晴らしい経験と出会いができました。竜の子財団関係者と寄付者の方々に感謝を申し上げます。



第三回編集会議後にて

委員 早稲田大学 キン エキゲン 金 奕群

この度、会報誌第22号の編集委員を担当しました。今回はSPECIAL REPORTを執筆しました。編集会議でテーマを決定する際に、中国の電子決済に興味を持つ方がいらっしゃいましたので、自薦させていただきました。原稿に添付する写真について、少し工夫しました。結局、国内にいる友達に頼んで撮影してもらいました。いろいろ、編集会の皆様にご迷惑をかけたまま誠に申し訳ございません。自分にとって、他の方と相談しながら、プロジェクトを完成させることは本当に久しぶりでした。皆様とお話できましてとても楽しかったです。ありがとうございます。



第二回編集会議にて

委員 北海道大学 オウ カキ 王 佳寧

この度、竜の子奨学生第22号会報誌の編集委員を担当させていただきありがとうございます。竜の子奨学生の皆さんは日本各地にバラバラにいらっしゃり、普段はあまり交流の機会がなく、今回の編集作業を通じて編集委員の皆さんと親しくなって本当によかったと思います。また、奨学生の皆さんからの投稿を読むと、皆さんはすごく頑張っていると感じて、自分も刺激を受けながら毎日を大切に過ごすよう頑張らなきゃと思いました。人生で、たった一度きりの出会いです。誰かとの出会いが私たちの人生を大きく変えるきっかけになるかもしれません。皆さんとの一期一会をここで記録できることはとても幸せだと思います。この貴重なチャンスを設けていただいた竜の子財団の関係者に深く感謝の気持ちを申し上げます。



第一回編集会議にて



「その夢はきっと世界を変えていく」

夢 希望をかなえる為 僕たちは生きている  
その夢はきっと世界を変えていく 平和のため  
いろんな事があるけれども どんなときでも

作詞：竜の子奨学生

作曲：班 文林（平成21年竜の子奨学生）

仲間とともに乗り越えて 竜の子の誇りを胸に  
夢 希望をかなえる為 みんなは生きている  
その夢はきっと世界を変えていく かならず